

Who are you

芸術研究科 造形表現専攻
写真・映像領域 博士前期課程
2025年3月修了

劉 志禹

主査 百瀬 俊哉 副査 大日方 欣一 佐藤 慈

研究背景

デジタル技術の発展に伴い、画像は情報を伝達する主要な媒体の一つとなりました。しかし、イメージの氾濫は、個人の認知バイアスの問題を引き起こす可能性もあります。このような状況下では、自分自身を正確に認識することが重要です。すべての人はこの世界で唯一無二の存在であり、「理想化されたイメージ」にとらわれて自分の欠点を過度に気にする必要はありません。また、大量の情報に直面して主観的な判断を失ってはなりません。以上のことを踏まえ、「Who are you」というテーマを意識しながら撮影を試み、「具体的」で「リアル」な人物像を表現しました。

研究目的

一つの固定された被写体を観察し、撮り続けることで、最終的に具体的なイメージを表現することを目指しています。このイメージには、その人独自の行動習慣や考え方を含み、多様なアイデンティティが反映されています。しかし、これらのアイデンティティや習慣は、その人だけに限定されるものではありません。むしろ、特別ではないこれらの要素が、唯一無二の人を構成しているのです。このような継続的な過程を通じて、被写体は自らの心の変化を記録し、主観的な個人意識と自己のアイデンティティをより強く認識するようになります。

研究概要



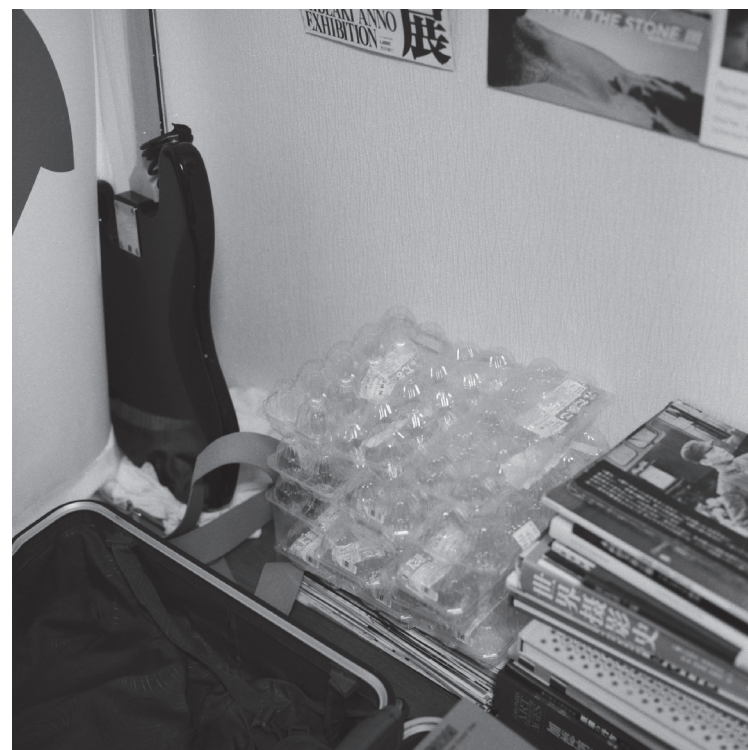
彼とペット



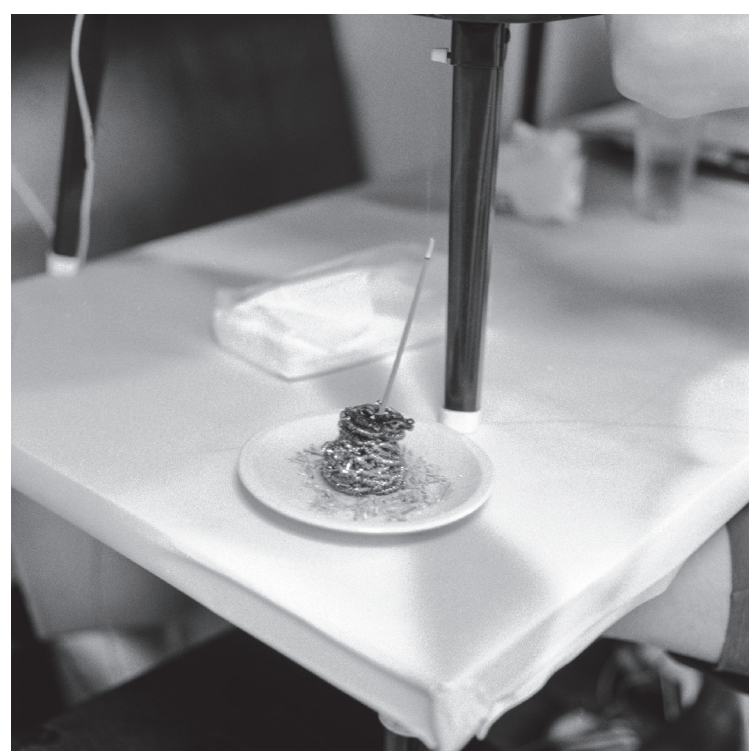
野の花



スーツケース



部屋の片隅



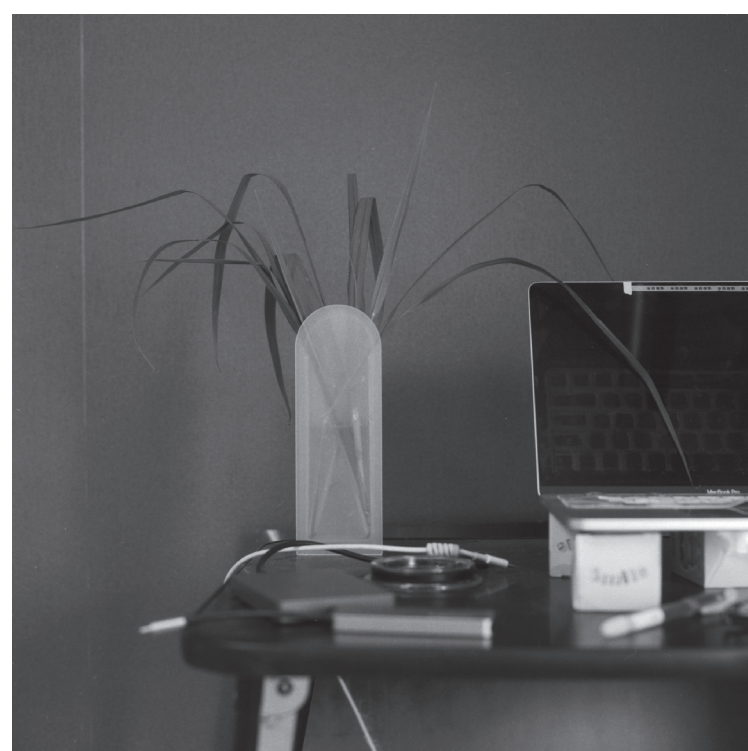
香立



椅子の上の服



喫煙者



机の上の雑草

成果・まとめ

撮影を進める中で、写真は単なる映像情報を超えて、より多くのことを表現できる媒体であると気づきました。しかし、「唯一無二の人」とは、さまざまなアイデンティティや行動、好みを持つだけでなく、その内面的な意識を含む存在です。このことを踏まえ、制作を進める過程で、被写体の心の動きを文字として記録し、それによって視覚的な情報を補完するよう試みました。人の存在は相対的であり、人と人、あるいは人と社会との絶え間ない交流や活動の中で構築されていくものです。今後も私は、個人の認知とそのイメージ表現についての研究および撮影を続けていきたいと考えています。



指導教員コメント

これら作品では、被写体の個性や意識が単に表面的な外見にとどまらず、社会や環境との関わりの中で形成されるという深い洞察が描かれています。その結果、鑑賞者は「私とは何か」、「他者とは何か」という問いを投げかけられ、思索する機会を得るでしょう。本作は写真を通じてアイデンティティと人間関係を再定義し、表現の可能性を拡大するだけでなく、現代社会における人間の在り方についての哲学的な問いを提示する作品となっています。

百瀬 俊哉